

ポイント④ 地域における認知症の理解の浸透と見守り体制の充実・強化

【課題】

1 認知症の人や家族が地域で安心して暮らし続けるための地域支援体制の構築

【課題解決の方向性】

認知症の人や家族は、本人の容態、本人と家族のライフステージによって抱える課題が異なります。地域で安心して暮らし続けるためには、多分野にまたがる課題の解決ができる地域支援体制の構築を図り、世代や地域住民、民間、行政間の垣根を越えて、それぞれが役割を果たしていくことが求められています。

例えば、徘徊があると不慮の事故等の危険性が高まり、住み慣れた自宅で安心して暮らすことができなくなっていくます。市民が認知症を理解したうえで、まちで困っている本人を見かけたときに適切な対応ができるように、本人や家族が地域で安心して暮らし続けることができる地域づくりを進めます。

1 認知症の人や家族が地域で安心して暮らし続けるための地域支援体制の構築

(1) 地域での理解と優しい見守り体制を作る。

- ①地域にある施設や病院等の地域資源を活用する。
- ②様々な関係機関との連携による見守り体制を強化する。
- ③徘徊時の早期発見や事故への未然防止のための体制づくりを推進する。

〈具体策〉

1) 岡山市行方不明高齢者さがしてメール事業の活用

行方不明になる恐れのある高齢者と搜索の協力者を事前に登録し、万一、行方不明となった方が出た場合に、登録された情報を協力者等にメール配信し、搜索の協力をしてもらう。

2) 行方不明になった際の近隣ネットワークの構築

※警察や消防との関係を密にし、岡山県警察はいかい老人SOSネットワークを活用

* 岡山県警察はいかい老人SOSネットワーク・・・認知症等の高齢者を事前に登録し、行方不明時のすばやい発見に役立てる。

3) 行方不明になった際の広域ネットワークの構築(県・他市町村)

4) 地域での見守り支援

・認知症サポーター、認知症サポートリーダーの養成(再掲)

・高齢者・子どもの見守りネットワーク事業の普及啓発

* 高齢者・子どもの見守りネットワーク事業・・・地域の協力事業者等との相互協力の下、高齢者や子どもに何らかの異変を発見した場合、適切かつ速やかに対応するための見守りのしくみ。

・近隣スーパー、コンビニ、タクシー、バス、新聞配達・水道やガスの検針・配食サービス等の訪問を行う関係機関との見守り協定及び研修の検討

5) 認知症身元不明高齢者一時保護事業の活用

徘徊で警察に保護された認知症高齢者のうち、身元不明で警察から老人福祉施設等での保護依頼があった方を、身元判明までの間、一時保護することで事故の防止を図る。

6) 認知症カフェの活用(再掲)